

臣是公中納言種繼等並爲留守、

〔水鏡下武〕

桓武

延暦三年十一月十一日戊申、長岡の京にうつり給ふ、同四年八月にならの京へ行幸

侍りき、長岡の京には、中納言種繼留守にて候しを、みかせの御おとゝの早良の親王東宮とて
おはせしが、人をつかはしていころさしめ給ひてき、ことのおこりは、みかせつねにこゝかじ
こに行幸し給ひて、世のまつり事を東宮にのみあづけたてまつりしかば、天應二年に佐伯今
毛人といひし人を宰相になさせ給ひたりしを、みかせかへらせ給ひたりしに、この種繼、佐伯
の氏のかゝることはいまだ侍らずと御門に申しかば、宰相をとり給ひしを、東宮よにくちを
しき事におぼして、種繼をたまはらんと申しを、みかせむつかり給ひて、さらに聞給はずして、
このゝち東宮にまつり事をあづけたてまつり給ふ事なくなりにしを、やすからずおぼして、
そのひまをとしごろうかゝひたまひつるに、よきをりふしにて、かく玄たまひつる也、

〔職原抄上〕攝政○中推古天皇朝、皇太子厩戸皇子推古廷也攝政、齊明天皇御宇、皇太子中大兄皇子天智又攝政、

〔日本書紀二十用明〕元年正月壬子朔、立穴穗部間人皇女爲皇后、是生四男、其一曰厩戸皇子、聖德或名耳聰
或云法主王、此之皇子、初居上宮、後移班鳩、於豐御食炊屋姫天皇○推世、位居東宮、摠攝萬機、行天
皇事、語見豐御食炊屋姫天皇紀、

〔日本書紀二十二推古〕元年四月己卯、立厩戸豐聰耳皇子爲皇太子、仍錄攝政、以萬機悉委焉、
〔神皇正統記推古〕厩戸皇子を皇太子として、萬機の政をまかせ給ふ、攝政と申き、太子の監國と云
事もあれど、それは玄ばらくの事なり、是はひとへに天下を治め給ひけり、

〔聖德太子傳暦上〕推古天皇元年四月、天皇初聞群臣奏勅曰、吾女人也、性不解物、萬機日墳、國務滋
多、宜天下之事皆啓太子、即日立太子爲皇太子、仍錄攝政、萬機悉委焉、太子受儲君位、固辭再三曰、臣天